

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ワラハンドクラブ・キキ		
○保護者評価実施期間	令和7年 11月 10日		～ 令和7年 11月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	令和7年 11月 10日		～ 令和7年 11月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎朝の申し送りで、アセスメント結果や支援の進捗、お子様の課題や具体策などを情報共有し、毎日の支援を行っている。	アセスメントシートを用い、情報を整理することで、職員全員が同じ支援ができるよう心がけている。	定期的に基本的な支援方法を確認することで、基本に立ち返り共通した手法で支援を進めていくようにする。
2	利用者の意見や希望を重視し、支援内容を事前に説明する時間を設け、自分の意見を表出しやすいよう心がけている。	お子様の特性を考慮し、説明する場所や時間など環境を調整するように心がけている。	利用者の特性に配慮し、個別支援計画の目標をイラストで示すことで理解しやすいようにしていく。
3	個別支援計画の目標を職員全員が意識し、PDCAサイクルに沿って支援している。	利用者全員の個別支援計画の内容(5領域)を表にまとめ、職員が目標を確認しやすいようにしている。 利用時の記録は5領域の目標と様子を記載するようにしている。	申し送りで、支援の進捗を確認しながら目標達成できるよう具体策や対応策を職員で意見を出し合っていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内に運動エリアがないため、粗大運動など身体を大きく動かす活動が難しい。	事業所内の部屋数や広さに限りがある。ホールの半分は畳になっているため、運動に適していない。	近隣の地域資源(公園や運動施設)を利用したり、室内でできる運動を個別活動(少人数の活動)として相談室で実施していく。また、掃除等でも全身を使うことで体の使い方を支援していく。
2	連絡帳に支援経過やその日の話題を記入してお渡ししているが、保護者からより具体的な活動内容が知りたいと要望が出ている。	現在は、「スタッフと一緒に勉強」の時間の内容を連絡帳に記載するルールだが、週6日利用のお子様だと内容に変化が出にくく、どのように記載したらいいのか困ることがある。	利用時の活動内容をどのように記入したら保護者に伝わりやすいか会議等で検討し、職員間で具体的な連絡帳の書き方を学ぶ機会を設ける。
3	家族支援プログラムや家族等も参加できる研修会や情報提供ができていない。	保護者からの要望があれば、研修等を紹介したり情報提供は可能だが、家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)を開催した場合の集客や準備期間、職員の業務量が課題。	お子様に対するの困りごとや心配事など個別で面談を実施し、支援方法や対応を伝える。 家族等も参加できる地域の研修会等の情報提供を行っていく。